

2018 年度中央大学考古学ゼミ 卒業論文・修士論文報告会

主催：中央大学文学部小林謙一ゼミ

2019 年 1 月 26 日(土) 13:20～17:30

中央大学多摩キャンパス文学部(3号館)3101 教室

プログラム

- 13:20-13:40 戦時統制経済下における統制番号について
文学部人文社会学科日本史学専攻 西川 裕立氏
- 13:40-14:00 武蔵川越藩松平家屋敷跡と川越城跡における遺物組成
—江戸後期の18～19世紀を中心に—
文学部人文社会学科日本史学専攻 榎 晟寿氏
- 14:00-14:20 近世江戸における副葬品としての煙管について
—東京都新宿区・港区・文京区の遺跡を中心に—
文学部人文社会学科日本史学専攻 河瀬 瞳氏
- 14:20-14:40 関東地方における古代の錠前・鍵について
文学部人文社会学科日本史学専攻 伏見 安美氏
- 14:40-15:00 秋田城の漆紙文書について—出土位置を中心に—
文学部人文社会学科日本史学専攻 佐田 陵平氏
- 15:10-15:30 縄文時代中期における東京湾沿岸の集落研究
—有吉北貝塚・有吉南貝塚を例に—
文学部人文社会学科日本史学専攻 波多野 尚輝氏
- 15:30-15:50 縄文中期から後期初頭の埋壺の様相—相模野台地を中心に—
文学部人文社会学科日本史学専攻 蔭谷 陵希氏
- 15:50-16:10 環状ブロック群のブロック形成の同時期性について
—千葉県墨古沢南 I 遺跡の石器の剥離順を用いて—
文学部人文社会学科日本史学専攻 鈴木 裕太郎氏
- 16:10-16:30 縄文時代中期中葉土器における口縁部文様要素の変遷
—茨城県東北部を中心に—
文学部人文社会学科日本史学専攻 金子 悠人氏
- 16:30-16:50 総括
- 17:00-17:30 有舌尖頭器段階の石器製作における素材剥片剥離技術
—縄紋草創期の相模野台地を中心に—
文学研究科博士課程前期課程 日本史学専攻 大野 朝日氏